

除草剤を使わない水稻栽培技術

高精度水田除草機の2回使用により、短時間の作業で高い除草効果を得ることができました。

食の安全や環境問題が叫ばれる中、水稻栽培でも農薬や化学肥料の削減が課題になっています。そこで、高精度水田除草機を活用した除草剤を使わない水稻栽培技術について検討しました。

これまでの結果から、機械除草を移植後10日（株間除草無し）、20日前後（株間除草有り）の2回行うことで、残草率は6%程度に抑えられ、欠株も少なく、除草剤処理に近い収量（96%）を得られることがわかりました。また、機械除草1回当たりの作業時間は23分/10aと短時間でした。

今後は、残草率5%以下を目標に、2回代かき、米糠施用などを組み合わせ、実用技術の確立を目指します。

表1 機械除草の効果

年次	機械除草回数	1回目株間除草	残草率 (%)	欠株率 (%)	収量 (kg/10a)	同左比率 (%)
H18	3回	無	9	6.3	439	79
	比較 (除草剤処理)		1	0.8	554	100
H19	2回	無	6	0.0	582	96
	比較 (除草剤処理)	有	10	4.4	542	89
			1	0.0	606	100

※残草率は無除草を100%とした乾物重の比率

○品種：きぬむすめ

○機械除草機種

高精度水田除草機

多目的田植機装着

株間除草機能付

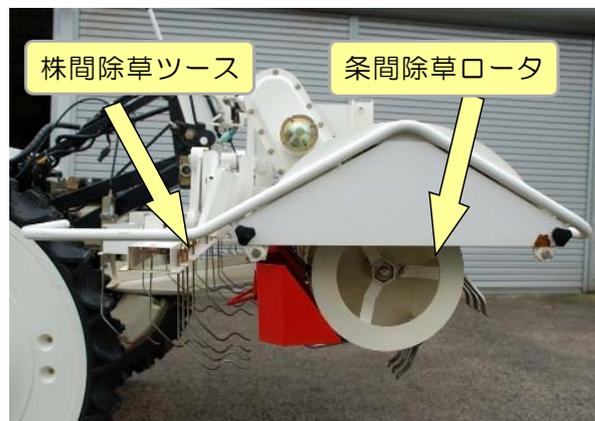
○除草時期（移植後日数）

H18：10、20、27

H19：10、22

○機械除草2・3回目

すべて株間除草有り



問い合わせ先：栽培研究部作物グループ（担当：安達康弘）

TEL 0853-22-6946

E_mail:nougi@pref.shimane.lg.jp